

令和6年度白井市地域福祉計画策定等委員会第3回会議 会議録（概要）

- 1 開催日時 令和7年3月12日（水）午前10時から午前11時55分まで
- 2 開催場所 保健福祉センター2階 研修室2
- 3 出席者 松山 毅委員（委員長）、市川 温子委員、入江 富士子委員、
岩田 明子委員、佐山 佳明委員、島田 知則委員、
白石 芳朗委員、徳重 史帆委員、野田 桃香委員、
松嶋 倫治委員、渡辺 正明委員
- 4 欠席者 松本 千代子委員（副委員長）、岩崎 順子委員、
佐々木 美穂子委員、瀬嵐 康之委員
- 5 事務局 内藤社会福祉課長、松本、河野、
白井市社会福祉協議会 赤間事務局長
- 6 傍聴者 0人
- 7 議題

- (1) 白井市第3次地域福祉計画策定に係る各調査結果について
 - ① 地域福祉に関するアンケート調査結果（公開）
 - ② 福祉に関する団体ヒアリング調査結果（公開）
- (2) 来年度の白井市第2次地域福祉計画「地域福祉に関する施策」に係る
主な取組の評価について（公開）

8 議 事

○事務局 本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。ただいまから、白井市地域福祉計画策定等委員会第3回会議を開催いたします。初めに、委員長よりご挨拶をお願いいたします。委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長 皆様、こんにちは。年度末のお忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。今日は、皆様のお手元に届いているかと思えますけれども、アンケート調査の結果と、これからの策定についての評価であったり推進であったり、あと、後半に懇談会の話もございます。いよいよ計画について具体的に動き始めたというところです。後ほど詳しくご説明があるかと思えますけれども、アンケート結果も多くの方にお答えいただいている、たくさんのご意見がございますので、本日は皆様のご経験からも追加するところや気になるところがありましたら積極的にご意見を頂ければと思います。この結果を踏まえて、骨子案のほうにまたつながっていくと思いますので、会議の回数はあまり多くないものですから言い残さないように、いろいろな忌憚のないご意見を頂ければと思います。今日はよろしくお願いいたします。

○事務局 ありがとうございました。本日は、松本副委員長、岩崎委員、佐々木委員、瀬嵐委員については所用のため欠席となりますが、委員の半数以上が出席されております。ほかの出席者といたしまして、前回に引き続き、市社会福祉協議会の赤間事務局長に同席いただいております。また、第3次地域福祉計画策定業務の委託業者である株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の担当者の方にも同席いただいております。

なお、昨年11月19日に開催した第2回会議を傍聴された方より意見書が提出されております。提出された意見書は委員に配布し、参考として扱うこととされているため、傍聴人の氏名及び住所を消して本日配布しております。ご確認をお願いいたします。

それでは会議に移ります。本日の議題については、「白井市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき公開とし、会議録を作成するため、内容については録音をさせていただきたいと思いますが、ご了承いただけますでしょうか。

〔異議なし〕

○事務局 ありがとうございます。それでは、議事の進行につきましては、委員長が行うこととされておりますので、委員長、よろしくお願いいたします。

(1) 白井市第3次地域福祉計画策定に係る各調査結果について

- ① 地域福祉に関するアンケート調査結果（資料1）
- ② 福祉に関する団体ヒアリング調査結果（資料2）

○委員長 それでは、進めてまいりたいと思います。議題（1）「白井市第3次地域福祉計画策定に係る各調査結果について」で、この①と②はそれぞれやりますか。一緒にやりますか。

○事務局 それぞれお願いいたします。

○委員長 それでは、「①地域福祉に関するアンケート調査結果」につきまして、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

○事務局・ジャパン総研 （資料1「白井市地域福祉に関するアンケート調査報告書」について説明）

○委員長 ありがとうございました。丁寧にご説明いただきました。それでは、

資料1の「白井市地域福祉に関するアンケート調査報告書」につきまして、皆様からご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。分析については今後出てくるところもあります。その分析の視点にもなりますので、気になった点やお気づきの点がありましたら、感想でも結構ですので、ご意見を頂けたらと思います。

○委員 問2の年齢分布のところは、アンケートの年齢分布だと思うのですが、市の人口構成の年齢分布と比べた場合はどうですか。同じような分布ですか。

○事務局 年齢区分については、各小学校区で10代ごとの年齢の区分に比例した数を抽出して、アンケートを送付しています。

○委員 ということは、市の人口構成と同じような年齢分布になるのですか。

○事務局 そうです。全体で1,500名は相対的に同じ割合で抽出しております。

○委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員 私が理解しきれていないだけだと思いますけれども、もともとの戦略プランがあって、地域の福祉の中でのテーマがあって、そこに対して、今回のアンケート結果を踏まえるとこの辺りが課題というか、今、概要は理解できたのですが、私が前回は出られなかったのですが、前々回は防災に課題がありそうだとか、地域とつながりがいい層に課題がありそうだというような話をしていたと思います。実際のアンケート結果の中で、特にこの辺りが課題になりそうだというものは、分析をされる中であったりするのですか。今後かもしれないのですが、つながりが薄いということが、やはりそうだったのか、防災訓練に参加した人がとても少ないようなところが想定どおりの課題感なのかが、私の理解が追いつききらず、どの辺りが課題になってくるのかなと思いました。

○事務局 今回初めて市として地域福祉に関するアンケートを実施したところで、項目も多様になるのですが、委員がおっしゃったように、特に地域福祉の分野での課題を見つけるためのアンケートということがメインになります。やはり、狭間の問題、住民同士のつながりが薄いとか、地域活動への関心・興味の状況の結果を踏まえて、あとは民生委員さんですとか社会福祉協議会の知名度のところも、意外と低いところもあったりしたので、そういうところを踏まえて地域活動の主体とな

る方々への周知や地域活動にもう少し関心を持ってもらうにはどうしたらいいかという課題が見えてきたのではないかという感触ではあります。

○委 員 分かりました。ありがとうございます。

○事務局 補足させていただくと、本来であればこのような計画の策定においてアンケートを実施するのですが、先ほども担当からお話したように、今回はアンケートを実施していなくて、前回との変化というのが見られない部分があります。一般的に高齢化、地域とのつながり、担い手不足というところ言われているところで、そういったところがこのアンケートで実態的に数字として明らかになったのではないかと考えております。

○委 員 ありがとうございます。

○委 員 お話があったかもしれないのですが、今回こういうすてきなアンケートがあって、協力してくれた方がいらっしゃいました。自由回答では79名からご意見があり、なるほどと思うようなこと、実際にこの市町村でもありそうな内容が書いてあります。それをご協力してくださった方に、今後の展開とはまた別で、何かご報告なりご説明というのはあるのですか。

○事務局 その方について個別に説明、ご報告というのは基本的には考えていないのですが、このアンケート結果については、ホームページで全て公表する予定をしておりますので、それをもって返させていただきますような形で考えております。最後の自由回答については、公表にあたり多少表現を考えなくてはいけないと思います。

○委 員 そう言っていましたね。すみません。ありがとうございます。

○事務局 ただ、このままというわけにはいかない部分も多少あると思いますので、公表にあたっては改めて確認させていただいた上で公表していくということになります。

○委 員 ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。気になったことでも何でもいいです。感想でも結構です。

○委員 回収率は、平均で比べると高いほうですか。年末のこの忙しい時期に、よくこれだけの方が回答してくれたなと思っているのですけれど。

○事務局 市のほうでは市民参加条例というものがあまして、その条例については、こういった計画で、市民参加がどのくらいできているかということで評価をしているのですけれども、その評価の基準の中では、3割というところを最低ラインにしています。ただ、最近は Web を使ったアンケートをやり始めていまして、この時期、いくつかの課で各計画を策定しているのですが、全て4割は超えているような状況です。今回43%と4割を超えています、突出して高いわけではない、そして低いものでもないという、ある意味平均くらいかと考えております。

○委員長 そのほか、いかがでしょうか。

○委員 今回、全市的にやっているのですけれども、学校区ごとにいろいろな項目で回答率や結果が違ってきているというのは、多分、学校区ごとの特性があると思うのです。第一小学校区、第二小学校区、第三小学校区は、在に近い区域、それ以外の所はいわゆる都市部的なもの、そういうところの分析なり、そういう地域特性もこれに反映させていただけるといいのではないかと思います。多分、市の方でケースワーカーとかいろいろと回っている方は、そういうことは分かっているのでしょうけれども、この結果だけを見ると、大半の市の住民の方はその地域の特性が分かっていないので、そういう着眼をできないのではないかと思いますので、できればそういうところも加えていただければと思います。

○委員長 いかがでしょうか。

○事務局 それは、計画作りにというところでしょうか。

○委員 はい。

○事務局 今回作る地域福祉計画については、あくまでも市全体の計画になっていまして、この計画とは別に、今日同席いただいておりますけれども、社会福祉協議会で作成する地域福祉活動計画については、それぞれの小学校区ごとに地区社会福祉協議会がございまして、それぞれの地区社会福祉協議会の活動状況、活動内容等についても、現在の計画において掲載させていただいています。この市社協の活動計画については、令和7年度において並行して計画を作ることになっていますので、当然、

このアンケート結果も踏まえて市と社協と連携を図りながら双方で計画を作っていくという形になるかと捉えております。

○委員長 今、委員からございましたけれども、このあとの「その他」のところから出てきますが、スケジュールを拝見すると、ワークショップを学校区に近い形で、幾つかの学校区をまとめて行うということなので、その時に言おうと思っていたのですけれども、この学校区ごとのワークショップの時に、全体のものというよりは学校区ごとのアンケート結果に分けてお示しして、自分の地域はこうですよというところでご意見を賜ると、自分の地域のことも知ることになります。ベースのデータがもうありますので、多少大変ではあるのですけれども、ソートをかけて学校区ごとの結果でまとめ直すと、そのほうがいいのではないかと思います。少し検討していただければと思います。

○事務局 分かりました。ワークショップについては、限られた時間もあるので、そのアンケート内容をどこまでその時間内にできるかということでは置いておいて、資料としてお配りすることは可能だとは思っておりますので、検討させていただきたいと思います。

○委員長 そのほか、いかがでしょうか。

○委員 資料の中で、「ボランティアをやったことはありますか」というアンケートに対して、「やったことがある」という人がざっくり言って3分の1、それで3分の2の人は「やったことがない」と答えているのですけれども、私の知っている限り、福祉先進国のデンマークでは、同じような質問に対して3分の2の国民がボランティアをやったことがあると答えているようなのです。この違いは何か。デンマークの場合は、市町村にボランティア専門の窓口があるそうなのです。白井市もあると思うのですけれども、今どのような感じなのでしょう。1つの部署で全部、ボランティアはここですという窓口ではなく、案件や部署ごとによってボランティアの案内をやっているのでしょうか。

○事務局 市の窓口となると、ボランティア専門という形ではないのですけれども、基本的には例えば環境とか、部署ごとにやっています。また、市社協のほうで、ボランティアセンターということでこの保健福祉センター内に設置していますので、ボランティア全体という形になると、市社協の窓口になるかと考えております。

○委員長 ボランティアはどこまでがボランティアというのかというのは、な

かなか難しいです。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○委員 皆さんご指摘のように、民生委員の知名度が低いのは重々承知なのですけれども、大きな転換期ではと私は思っています。この5年で、いわゆるスマホやSNS的なものに触れる機会や人がどんどん増えてきて、皆さんも多分お手元にスマホを持ったのもこの5年くらいで、ご高齢の方も若い子も持つようになりましてから、そのツールを使った上で民生委員活動というのを考えていかなければいけないと思うのです。けれども、民生委員は高齢化がすごいので、中の仕組みも変えなければ活動は変えられないだろうとか、変えなければならぬだろうというのはとても感じています。

活動が分からないとかいうよりも、私も民生委員になるまでどんなことをしているのか知らなかったのと、必要な方には会いに行ったりするのですが、今は特に困っていないとか、元気な方には特段会うことはほとんどなかったりします。チラシなどを配っても、皆さん目にはするけれども、インパクトのないものがぱっと流れていく感じだと思います。最近、白井市の広報もLINE配信になったりしています。あれを見た時に、こうやってぱっと一面でいろいろと自分の興味のあることが送られてくるようなところに活動を乗せなければ駄目だなど、いろいろと思うことはありました。その数字がばっちり載っていたので、なるほどと思いました。いろいろな地域の特性も拝見できたので、併せて、各地域に持って帰ってあげようという思いです。

活動のニーズは本当にいろいろなことがあると思いました。数字で言えば、第二小学校区がとても地域の活動をいろいろとされていると出たけれども、母数が少なくて、23人の答えに対して、ほかのもう少し母数がある所と比べて、1人だけで4%の数字が動いてしまうということは、どちらが正しいのかと。第二小学校区の活動はとても熱心なのだろうと思いつつも、ほかの区でもやっていて、たまたま参加していない人が答えていたかもしれないし、たまたま熱心な方が第二小学校区で「僕は携わっています」とか、「私はやったことがあります」という人が1人、2人いると、それだけで8%とか12%と動いただろうと思うと、全然知られていないわけでもないし、皆さん、全然やっていないわけでもないのだろうと、数字で拝見することができました。

ご意見も、直接ご意見がたくさん載っていて、なるほどと読ませていただき、いろいろと勉強になる資料を頂けたと思っています。ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。なかなか自分の地域の民生委員さんは誰

かというのは、民生委員という名前は聞いたことがあっても……。

○委員 分らないと思います。

○委員長 自分のお住まいの地域の民生委員さんの名前は分かりますかと言うと、意外と分らないものです。ですから、その辺りは課題ではあるのです。確かに必要になればお聞きするのですけれども。そのほか、この市民アンケートにつきまして、いかがでしょうか。

私は市外の者ですから、9 ページの間 7「お住まいの形態」を見て、「持ち家（一戸建）」と「持ち家（マンションなどの集合住宅）」でほぼ 9 割くらいですから、1,500 件配って、40% くらいの回答率のうち 9 割近くがマンションも含めて持ち家というのは、白井市の特徴ではないかと思いました。賃貸とかというよりは、ここに家を買って住んでいる方が多い地域ということは、もしかしたらこの地域の 1 つの特徴かもしれません。マンションを含めて家を買うということは、ここに定住するという意思があるということですから、少なくとも数年で移動するという発想ではないと。そう考えると、家を購入されて住む方が比較的多いというのは、これは 1 つ特徴なのではないかと見ておりました。

地域のつながりについても、やはり皆さん、つながる必要があるのではないかという結果でした。13 ページの、間 12「あなたと近所の人との関係はどれに最も近いですか」でも、「ほとんどない」、「顔も知らない人が多い」という人がなくて、あいさつや世間話をするという付き合いの方のほうで圧倒的に多いというのも、やはりこれも持ち家ということを考えて、ある程度近所と仲良くしておこうかなという意識は働くと思います。これがアイデンティティの問題とどうなってくるかというところはまたあるのですけれども。15 ページの、間 13「暮らしていく上で、近所や地域との関わりは必要だと思いますか」でも、90% の人が必要だと思うと答えている。これは無記名ですから、別に「必要ないと思う」と答えてもいいのですけれども、無記名でも 9 割は必要だと思っている。

ただ、16 ページの、間 13-1「必要ないと思う理由は何ですか」の理由が、プライバシーとか煩わしいとか、困った時は市に頼ればいいというような、極めて個人主義的なところがあって、現在の社会で指摘されているようなこと、失われている部分と、指摘されている個人主義的な部分の両方が混在しているというのでしょうか、そういう白井市の特徴があると思いました。そこで、例えば間 13 の必要ないと思うというところと年代でクロスしてみると、高年齢層の人が必要ないと思っているのと、若い世代の人が必要ないと思っているのは違って、意外と高年齢の方は、知られたくないというよりは純粹に関わりたくないとい

うことがあったりするので、こういうクロス集計をしてみると、逆に、必要ないと思う人たちがどうして必要でないと思うのかというところの分析を通して、ではこういう人たちが必要だと思うように変えていくにはどうしたらいいかというターゲットにもなってくると思うので、そういう分析もあると面白いかなと思って見ていました。

こうやって見ていると、このアンケート結果から、結構白井市の特徴があるなと私自身は感じましたので、非常に面白い調査結果だと思いました。先ほどもございましたように、分析する時に少し学校区ごとに分けてみて、学校区ごとの地図にして、その学校区ごとの特徴を、項目出しで結構なので並べてみるだけでも、市全域と学校区ごとの特徴や違いが多分出てくると思うのです。そうすると、地域福祉計画全体を作る時に、ターゲット層としてこの学校区、このエリアはこういう施策を中心にやるとか、そういうことができてくると思うので、使い方によっては非常に有意義な結果ではないかなと思って見ておりました。すみません、本当に感想なのですけれども。分析を楽しみにしたいと思います。

資料1につきまして、皆様から何かご質問、ご意見はございますか。ないようでしたら、資料2のほうのご説明もございますので、先に資料2のご説明を頂いて、また資料1のほうに戻っていただいて結構ですので、まず(1)の②「福祉に関する団体ヒアリング調査結果」のご説明をお伺いしたいと思います。では、よろしくお願いいたします。

○事務局・ジャパン総研 (資料2「白井市福祉に関する団体ヒアリング調査＜結果まとめ＞」について説明)

○委員長 詳細にまとめていただきまして、ありがとうございました。やはり市民アンケートに比べると、地域福祉のダイレクトな課題が指摘されていると感じました。皆様の中にも団体としてヒアリングの対象になった方、アンケートをされた方もいらっしゃるかもしれませんが、いかがでしょうか。この資料2の団体ヒアリング調査につきまして、ご質問、ご意見等ございましたらよろしくお願いいたします。

○委員 理解度を上げたくて質問するのですけれども、どの団体さんもやはり人材確保をとて課題視されていて、これは多分企業も含めてそうだと思うのですけれども、仮にこの人材確保が今後拡充できなかった場合、どういう問題が起きてくるのかの理解を深めたいです。調査会社さんでもいいですし、実際に団体をされている皆さんでもいいです。次世代が育たず、担い手がいなくなると、どういう問題が実際に顕在化してくるのかの理解をしたいと思って質問しました。もし何か、ヒアリン

グの中でも、こういうことに実際困り始めているとか、これが続くとうなっていくというようなこととか、それによって市民の方にどういう影響が出るのかを理解したいと思ってる質問です。

○委員長 どうでしょうか。難しいけれども大事ですね。

○委員 何が起こるのかなと思って。ぜひ教えてください。

○事務局 答えられる範囲になってしまいますけれども、団体に直接お話を伺うと、高齢化、担い手不足というのはもうどこも、先ほどの民生委員も、そうだと思います。また、団体、ボランティアをやる方は、1人の人がいろいろな団体に属したりして、重複していることが担い手不足の一因になっており、担い手がないからそういう状況になっているのではないかと考えています。実際に、本当に高齢化している団体については、活動ができないのでということで団体がなくなってしまうとか、今やっている活動がもうできなくなるということは現実的に起き始めていると捉えております。

また、自治会もそうですけれども、市のほうでは、今、小学校区ごとにそういった自治会や地区社協さんがつながるということで、まちづくり協議会というものの設立に向けて各小学校区で、取り組んでいるところです。それぞれの団体が少し小さくなっていくというのは、現実的に人口も減っているんで避けられない部分ではあるのですけれども、そういった現状はもう起きていると考えています。

○委員 なるほど。

○事務局 活動している団体の皆さんの話のほうが、もっと具体的に現実の話がお聞きできるのではないかと思います。

○委員長 いかがですか。

○委員 ボラ連も全くこのとおりで、全部の団体がもう高齢化してしまっています。ボラ連が発足した当時は27団体もあって、1,000人近い方が会員でいらしかったのですけれども、今はもう8団体に減ってしまって、それも皆さん高齢化になっているので、事業そのものも、継続していくのが難しいところもだんだん出てきています。

今回のヒアリングでも、ご一緒された方はやはり同じような感じもありますし、支援をもっと欲しいと言っていらっしゃった方もいらっしゃるのですけれども、白井市自体がそんなに裕福ではないと思いま

すし、これからどんどん高齢化していったらもっと大変かと思うのですけれども、何とかして団体さんのお手伝いできればとは思っております。

先ほどの調査でも、社会福祉協議会を知らない方がたくさんいらっしゃるというのがあったのですが、以前でもやはりそうなのです。だから、もう少し社協が表に出て行かれたほうがいいのではないかと思います。一生懸命頑張っているのに、とても残念だと思っています。

○委員 ありがとうございます。

○委員長 社協、指摘がございましたが、何かありますか。

○社 協 社会福祉協議会は、先ほどのアンケートの中で、やはり認知度がまだまだ低いと思っています。ただ、周知に力を入れていないわけではないのですが、なかなかうまくつながっていないというところがあって、これからの課題であると思います。

あと、先ほどの、担い手が減ってくる中でどうなるのでしょうかということについて、これは皆さん誰もが分かっていて、人口ピラミッドがつぼ型になっていて、もう下が細いから担い手が少なくなるというのは明らかなのでそれをどうするか。昔はおみこし、次に騎馬戦、今は肩車になってきているということで、担い手不足というのは避けられないところだと思います。それをカバーするのが、仕組みをつくって少ない担い手で地域を支えるという方法だと思い、今、社会福祉協議会はその間に力を入れているところなのですが、なかなか、十分に行きわたっているかというところ、そうではございません。団塊世代が75歳の後期高齢者を迎えた2025年問題と言われているところ、超高齢化の入り口に差し掛かっている中で、そこは次の計画に向けても市の地域福祉計画と併せて地域福祉活動計画の中にも盛り込んでまいりたいと思います。ぜひ皆さんと一緒に考えさせてください。よろしくお願いいたします。

○委員長 いかがでしょうか。関連するところでも結構です。

○委員 6ページの一番下のところに書いてあるとおりですけれども、「福祉の仕事は意味のある仕事ランキング1位ではあるが、なりたい仕事ランキングは最低。」とあります。だから、私たちの法人というか全体的に言えることですけれども、まず、こういう福祉の仕事というのはいいのだと、魅力ある仕事なのだとということを発信することがまず大事です。福祉は3K、5Kと昔から言われていることを、皆さん知っていると思うのですが、では、いいところはどこかとなったときに、なかなか

か出てこないというのが少し歯がゆいと思うので、まずは私たちから発信をしていく。いいところ、プラスなところ、こういうところがすてきな仕事なのだというところを発信していきたい。

あとは、やはりすてきな仕事というだけでは続かない仕事なので、それに見合う収入といったものもなければ、これはやはり少なくなっていくので、そういうところもアップできるように、例えば報酬改定があった時には各事業所のほうから声を大にして県に上げるとか、市に上げるとか、そういった取組を今もやっているのですけれども、それを継続的に続けていくことが大事かと思っています。何にせよ人はいなくなるので、この仕事は絶対マンパワーの仕事なので、今言ったところを大事にしながらやっていくことがいいのではないかと思います。

○委員長 ありがとうございます。ほかは、いかがでしょうか。関連するところでもそれ以外でも結構です。

○委員 今回のアンケートには参加していないのですけれども、どこの団体も結局は高齢化、メンバーが増えないという課題があります。なぜそうなるのかというのをできればアンケートで取りたいと思っているのですが、そういうことはできるのですか。例えばうちの障害者団体であれば、障害を持っている方の親に、こういう団体があったら入りますか、入らないのだったら何が問題ですか、のような。そうすると少しは解決策が出てくるのではないかと。

○委員長 いかがでしょうか。事務局、何かございますか。

○事務局 個別のものについて市のほうでアンケートを取るというのは、現実的には、今、社会福祉課としては難しいかと考えています。頂いたご意見については、障害福祉課がございますので、共有をさせていただきたいと思っております。

○委員長 実際、今、育成会は、会員はどれくらいなのか。

○委員 白井市は32家族くらいです。ただ、県育成会も人数は全体的に減っており、もちろん高齢化。全国の育成会も同じです。多分、こういう団体に入っているといろいろとやることが多くて、自分の時間がなくなってしまうとか、そういう理由もあると思うのですけれども、まだほかに理由があれば知りたいと思います。それで改善できれば改善していったって、当然若い会員の方も欲しい。何せ、育成会は私が一番若いほうですから、10年後になると少し怖いなど。そのような感じです。

○委員長 私も佐倉市の育成会などに関わっているのですけれども、やはりどの自治体も、立ち上がった当初、70年代とか60年代というのは、まだ社会資源が十分ではなかった時代、サービスがなかった時代なので、育成会は、当事者を抱える親御さんが入って、自分たちで事業所を立ち上げたり、市に訴えかけたりしてサービスを増やしていくという、そういう団体だったのです。今は障害者の分野も社会福祉サービス自体がとても整っているので、先ほどの市民アンケートもそうですけれども、自分たちが何かをやらなくても困ったら市に聞けばいい、市に頼ればいいという考え方になっています。

○委員 今は情報が入ってきますよね。

○委員長 はい。そうすると、住民同士でつながらなければいけないとか、そういう当事者とか課題を抱えている方々とか本人がつながらなければいけないという必然性のようなもの、切実なもの、動機付けがやはり減っているのです。そういう中で、新たに私たちがこの地域の中で担い手だ、つながりだと、先ほどのボランティアもそうですけれども、身近で、自分の都合がいい時に参加できるようなものを求めているというボランティア意識の中で、一方で、団体が求めているのは恒常的にメンバーになって、組織運営も含めて活動に携わってほしいというマンパワーを求めている。この辺りのずれをどう考えていくのか。それはこれまでのように、団体の正会員になって活動とともに組織運営も含めてやってくれる人でなければ駄目なのか、現代のそういうボランティア意識に合わせて、パーツ、パーツで関わってくれる準会員のようなものをどんどん増やしていくということで、組織の活動を進めていきながら、コアになる人はその中から必ず出てきますから、そういう人をうまく抽出して育てていくというように、実は団体側も意識を変えていかなければいけない側面も、先ほどのアンケートと併せて考えると、あるのではないかと。

そういう意味では、育成会には32家族しかいないけれども、実際には白井市の中に育成会の対象になるような当事者家族はもっとたくさんいるはずです。その人たちがなぜ入らないのかというところは、例えば周知が足りないのか。周知が足りないとすれば、障害者の手帳や相談の交付の時に育成会のパンフレットを渡すとか。育成会は、入ってきた人とはやりますが、そういう障害当事者の方にこちらから直接というのは、情報がなければなかなか難しいのであれば、本当はそういうところ、ご指摘のところが実はとても大事なところではないかという気がいたしました。余計なことをいろいろと言って申し訳ございません。

○委員 参考になるか分からないのですが、今、私は子どもを2人育てていて、仕事をしていますが、周りの友人などを見ていると、とにかく時間がないのです。特に、最近、企業側も変わってきているので、副業などが結構当たり前になってくると、自分の限られた時間を何に投資していくかという優先順位をつけてやっていこうとすると、小学校のPTAのような、いわゆるボランティアの活動は、やりたくてもやれないというところが結構あります。

桜台小学校は、この間、とても大きく PTA を変えて、これだけはやる、これはもうやらないというように、やらないことを決めたのです。これまでは大事にしてきたけれども、結構ぱっと捨ててくださった。そうするとこちら側も、全部やらされるとやりたくないけれども、ここだけでいいならばやれるかもしれないというように、入り方のようなもの、気持ちがいぶ変わっている方が多いです。先ほど言ってくだった、フルコミットしろと言われるとしんどいけれども、関わりたくないわけではないから、副業のような感覚で、スポット、スポットでという選択肢があるなら、とても元気な友達が多いので、参加してみたいとなってくるのではないかと思います。

○委員長 ありがとうございます。ぜひこれも素案の骨子案のほうに反映していただければと思います。そのほか、何か気になった点とかご質問とか、いかがでしょうか。

こちらのアンケート結果も、非常に面白いと言うと失礼な言い方ですけれども、やはり行政に求めるもの、先ほどの市民アンケートもそうですけれども、市の行政や社会福祉協議会という地域福祉はなかなか、個別な対象者がいるわけではなくて、ある意味市民全員が対象でもあり、団体全部が対象でもあります。高齢者福祉だったら介護保険の対象者とか、障害者とか子育てのように対象者が限定されている分野ではないので、そういう意味では、非常に幅広い分野ですけれども、市として地域福祉を豊かにしていくメリットとか意義は何か。地域福祉計画を作らないといけないから作るという側面もあるのですけれども、これを作ること、例えば市民の参加を促すとか団体の活動を活性化することが、行政にとっての安上がり福祉のためにということではなく、そういう側面もありつつも、でも一方で、こういう活動が市民にとっても暮らしやすさ、安全、安心とか、そういうものにつながるためには、もう少し人々の意識や参加、そういうものを豊かにしていくことが大事なのだというビジョン、そういうことを目指す、地域福祉が豊かになることが白井市にとってどういうメリットがあるか、ひいてはそれが市民にとってどんな意味や意義があるかということが、こういう結果から打ち出せるのではないかと。その基礎資料に十分なる。これから分析

も大変だとは思いますが、そのためにやらなければいけないことも、だいたいの課題が明確に出ているような気がします。

象徴的だったのが連携不足です。団体が拠点として無料で借りられる場所が、近隣市町では減っています。ボランティア団体ですら、以前は市社協のボラセンを通して安く借りられた所が優先ではなくなり、1時間当たりいくらとか、公民館の部屋も値上がりしています。そういうものが優先的に安く使えるというのは、白井市はすごいなと思います。それに恩恵を感じているというご意見が多いということは素晴らしい。こういうものを生かしてやっていくには、団体の意見とか地域福祉を進めていくにあたっての市のビジョンというものがますます問われてくるというか、重要です。連携のためには、団体がつながっていないというのはどこもあると思うので、このあとの議題になるのですが、令和7年度事業の中で、早速、ボランティア団体、市民団体同士が集まって交流会をするということを市社協で企画するなどすると思います。もうこの結果が出ているのですから、だったらもうざっくりばらんに交流会でお互いの活動を知り合ひましょう、フェスティバルをやりましょうというようなことにもすぐ使える。お互いを知り合うと、あそこと一緒にやってみようかとなって、そこで市社協がコーディネートして、この活動とこの団体が一緒にやったらどうこうなどとなると、今のマンパワーでもできるのです。それがまさに連携です。

当然、行政もそうです。行政もこういう活動をしていきたい、だから公助と互助、共助の辺りをどう組み合わせっていくかというのが、まさに地域包括や重層的支援体制整備という、地域福祉の今一番大事な施策を反映していくための課題になってきます。そのようにこの結果を使っていただくと、説得力のある計画になるのではと思います。絵に描いた餅のようなお題目だけの計画に比べると、具体的な課題に即して書き込め、それに則して進めていけるとと思います。大変だったと思いますが、今回のアンケート結果は非常に今後に役立つと思いますので、整理や分析をさらに進めていただきたいと思います。

これは私の意見ですが、次の会議が7月でしたか、その時に恐らくもう少し分析結果も含めて骨子案に反映されてくると思うのですが、これを例えば関係各課に見ていただいてコメントを頂く予定はありますか。

○事務局 この計画策定にあたっては、庁内の委員会も当然ございまして、このアンケート結果についても既にご意見を頂いております。また、この外部の委員会と庁内の委員会と並行して進めておりますので、そこは連携を図りながらそのような意見を反映させたものを計画の策定に生か

していくという仕組みになっております。

○委員長 自分の課に関係することもあるので、自分たちの課の仕事を進めていく上で、こういう意見があるのだとか、庁内で合理的に進めていくには、これからは自分たちの協働とか連携が問われてくるところだと思いますので、関係各課がこの結果をどう読んだかというのを、庁内の検討会の中で意見を出し合うといいと思います。先ほども申し上げましたけれども、私は今、幾つかの市町で地域共生社会とか重層的支援体制整備で関わっているのですけれども、やらなければならないからやるとか、上からトップダウンでやらされると、やらないのです。この結果を各課が見れば、自分たちの仕事にとってもこれは必要だとか、こうやればもっと楽になるとか、もっと有効にできるというように、動機付けが変わってきますので、ぜひ生かしていただけるといいと思います。ご活用いただきたいと思って聞いておりました。

議題（１）につきまして、①と②のアンケート結果についてご報告いただきましたが、何かこの場で確認しておきたいこと、ご意見でも結構ですが、言っておきたいことがありましたらよろしくお願いします。

○委員 ほかの部署との連携ということで、市民活動支援課でもやはり市民活動をするにあたって高齢化しているという話がとても出ているはずで。まず、社会の仕組みとして定年が延びたことによって、昔は 60 歳定年だったのが、今や 60 歳で本当に仕事を辞める人はほとんどいなくなって、65 歳が最低くらいになっています。それから、家庭の中も、母親も働くのが当たり前の世の中になっているので、例えば何世代かが一緒に住めば、福祉の部分でおじいさんやおばあさんの面倒が見られるとか思っているかもしれないけれども、親が両方とも出ていれば子どもに負担がかかってきて、例えば高校生の子がおじいさんやおばあさんの世話をしなければいけないとか、そういうふうにもなっている今の世の中なので、単独の家庭がいいのか、多世代で住んでいる家庭がいいのかと言われても、それもやはり多世代で住めばいいという話でもなくなっているから、そういう面でも考えなければいけない部分があると思っています。

あと、情報として、他市ではどういうことをやっているのかということも、いろいろな所の情報が知れるといいと思います。ネットで見れば分かるのでしょうけれども、長になっている人がそういうことを得意としていないところが多いので、そういうものが目にとまるようにするとか、こういう所でやっているというのを耳に入れてもらえるような場所があるといいと思います。

あともう 1 つ何かを言おうと思っていたのだけれども、忘れてしま

いました。

○委員長 では、思い出した時に。

○委員 思い出しました。バスの話です。バスも、この中で交通手段としてみんなが困っている部分で、高齢者は特に、もう危ないからと免許を返納して、今まで車で過ごしていたのが過ごせなくなって、かといって鉄道網が発達しているわけではありません。駅前に公民館があって、私はそれが当たり前だと思って過ごしていたのですが、他市の人から見ると、「駅前に公民館があって、しかも体育館まで兼ね備えているのはとてもいいね」と羨ましがられたのです。先ほど、集う所がないから駅前に新しい施設をとか、このアンケートの中にありましたけれども、それに活用すればいいのです。白井市はそういう財産を持っているので、もう少し有効に活用するといいと思いました。

バスに関しては、京成バスなどのバスが通っているのは本当に限られた所しかありません。これからは自動運転でうまく回ってくるのかもしれないけれども、確かトヨタが静岡で実験を進めていましたけれども、そういうものに私たちの市も優先的に手を挙げて実験都市としてやるとか、あるいは、運転手はその人の希望する所で乗せてあげるといふ、タクシー会社ではないけれども、そういうシステムもあります。移動するための手段として、そのようなみんなが少しずつ楽になるような方法を何か検討してほしいです。市のバスも、大きいバスではなくても満杯になっているのは見たことがないので、もっと小型にして本数をもう少し増やすとか、そういう工夫をしてもらえるように、課のほうで検討していただけるといいと思いました。

○委員長 ありがとうございます。ご意見ということで、よろしく願いいたします。それでは、大丈夫でしょうか。それでは、ほかにありましたら最後にまたお聞きしますので、次の議題に進ませていただきたいと思います。

(2) 来年度の白井市第2次地域福祉計画「地域福祉に関する施策」に係る主な取組の評価について

○委員長 議題(2)「来年度の白井市第2次地域福祉計画『地域福祉に関する施策』に係る主な取組の評価について」ということで、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 （資料3「白井市第2次地域福祉計画「地域福祉に関する施策」にかかる主な取組の評価」について説明）

○委員長 お分かりいただけたでしょうか。頂いた資料3では令和5年度までで、今は令和6年度の最後が残っていますので、6年度の評価も含めてということです。時期的には計画のスケジュールでは、10月会議の時に評価をするのですか。

○事務局 はい。今年10月の会議の時に、同じように、令和6年度のこの施策の取組の評価についてご提示して、確認、協議いただく予定になっております。

○委員長 その時に来てほしい部署等ありましたら。だいたいの話ではあるのですけれども。

○委員 先ほどのアンケート結果で課題感が強いテーマに近いところの話を聞けるといいと思っていますが、どれなのでしょう。

○委員 先ほどのアンケートの中で、ワンストップでの相談窓口というのがかなりあったと思います。確か市川市か何かは、職員一人一人がノートパソコンを持って、必要があれば順番に窓口に行く仕組みになっています。相談者が相談窓口に来ると、Aという課題について聞いている時にはAの担当がそこに行って、Bの課題があったらBの担当がそこに自分のパソコンを持って行って、相談者が動かないで職員が出向くというシステムで相談窓口をつくっていると思ったのですけれども、そのようなワンストップについて白井市は今後どういうふうにやっていくのか聞ければと思います。

○委員 今、庁内でWi-Fiで飛ばせられれば、パソコンを持って出向いて行けば、そこで資料を見ながら相談ができるので、そういう窓口があればいいと思います。

○委員 （6）の①とかですか。

○事務局 現在、具体的な取組としてやっていないですが、関連するのは（1）の①の「相談支援体制の整備」でしょうか。

○委員 そういうものを整備するような方針があるかとか、例えばWi-Fiなどが整備されていれば、いわゆる公民館などでも可能です。その時には、

そこで担当者、パソコンを持った人がその担当部署に問い合わせして、必要な画面を送ってもらって、その場で相談者に見せるなどというようなことが、物理的に可能ではないかと思います。そうすると、ワンストップに近い形ができるのではないかと。そういう体制をつくっていただけるかどうかというようなことを聞ければと思います。

○委員 （１）の①の５ですか。

○委員長 （１）の①「相談支援体制の整備」もですし、裏面の（６）の①も「包括的な相談支援」です。これは「Ａ」です。今、委員からご指摘があったようなことは、恐らく次の計画の骨子案・素案などにも書き込めることですが、それを前提に、現状としてそういう仕組みがどのようにされているかとか、どんな考えがあるかとかをお聞きしたいということです。この辺りをぜひご検討ください。

ほかはいかがでしょうか。避難行動要支援はぜひお越しいただいて、話を聞きたいです。これはどこが担当部署なのですか。

○事務局 危機管理課が主になりますが、当然、障害福祉課や高齢者福祉課も関係すると思います。

○委員 実際に地域で動く時には自治会などが主体になりますので、市民活動支援課も。

○事務局 ただ、プランの作成ということになると、やはり危機管理課が所管になるかと思います。

○委員長 この評価を実施した部署の方には来ていただかないと分からないと思います。

○事務局 そうですね。

○委員 育成会の会員に避難のことを聞くと、90%くらいは自宅避難で、避難所には多分行けないでしょうと。では、食事などはどうするのか。その辺りのことも、もし考えられればお願いしたいです。もちろん福祉避難所もつくってほしいのですけれども、多分自宅で過ごすだろうと。

○事務局 自宅でお過ごしできるのであれば、それは障害者に限らず全ての市民も自宅避難というのが一番理想で、市のほうでもそのように周知しているところです。基本的なスタンスとしては、自宅での避難ができ

ない方は避難所という形になるかと考えております。いずれにしても、危機管理課については、評価をする際には出席いただけるような形で話はさせていただきたいと思います。

○委員長 今のような質問も出ると思いますので、よろしくお願いいたします。
ほか、いかがでしょうか。

○委員 私は、本当はできれば全ての課に出てもらいたいです。その理由は、あくまでも令和3年～6年の評価というのは、そちらのほうで評価されたものであって、今回初めてアンケートを取られて、こういった形でいいご意見がたくさん出たので、それを聞いた上での、今、委員長がお話しされたビジョンとか手段というものをどう考えているのかというのを、全ての課に聞いてみたいです。

○委員長 ありがとうございます。日程調整が大変だとは思いますが、本来この会議の位置付けにもよるのでしょうけれども、やはり評価の時には評価した部署が全部来るのは一般的です。そう考えると、どんな質問や意見が出るか分かりませんから、可能であれば関係する課の方にはこの日は来てもらいたいです。決め打ちで、このことは聞きたいというテーマで、今回は避難行動要支援者の災害時対応について話し合いますというテーマがある場合は、その担当部署だけが出てきますけれども、全般的なのでできるだけ多く、細かい担当課ではなくて、基本方針ごとのところの評価で答えられるくらいの方はそろえてもらおうとか。我々も今は10月の会議の時にこの人に来てほしいと覚えているけれども、その時はもう忘れてしまっているかもしれないし、その時にどんな意見が出るかも分からないので。

単に令和3年～6年の評価の結果を聞きたいだけでなく、10月の段階ですと骨子案も出ていますから、評価のことも聞きながらこの骨子案・素案にどうそれを反映させていくのかということも含めての議論になるはずです。ということは、大変だとは思いますが、やはり主な関係する課の方にはご出席いただくほうが、会議としては非常にやりやすいかと思います。全てとは言いませんので、会議としてはそういうふうをお願いしたいです。

○委員 骨子案を作るのであれば、私もそれがいいと思います。どんな骨子案が出てきて、それに対してどういう質問があって、何を聞きたいのかというのはその場でないと分からないと思うので。

○委員長 本当は順番が逆なのです。評価があってから骨子案があって、素案な

のです。骨子案が出てから評価なので、ますます評価だけの話にならないだろうと。どうしてこの骨子案になっているのですかという話にも当然なってくると思うのです。

○委員 このアンケートがとても詳細に書いてあって、「ああ、やはり」と思うものもたくさんあるので、これを何とかして生かして実現可能なものをしていきたいと個人的に思っていました。それを実現するのがこの委員会なのではないかと思っています。

○委員長 ほかの委員の皆様、いかがでしょうか。事務局は大変だと思いますけれども、できる範囲で、できるだけそういう方向でお願いします。

○委員 時間をずらしてもいいので、会議の中に担当の方が参加してくれるとありがたいです。

○委員長 事務局は大変だと思いますけれども。

○事務局 やり方は検討させていただきたいと思います。

○委員長 ここは、我々が意見を言う場です。最終的には行政が作る計画ですけれども、市民委員が入って意見を言う。その意見を聞くとか、ディスカッションをするというのは、実はこれまでの行政の中では、市民とディスカッションをすると文句を言われるのではないかとというところがあって、大体基本的に各課はあまり出てきたがらないのです。ですけれども、この会議体を見ていただくと分かりますように、非常に建設的なご意見がたくさん出ますから、そういう意味では、市として、こういうふうに考えているのだというのを聞いていただいて、我々もそれについての意見を言うなどしてブラッシュアップしていけるような、共につくっていくような会議であるということをぜひお伝えください。決してつるし上げる会議ではなく、より良くしていくために意見交換したいということで招集していただけると、非常にいいのではないかと思います。作ったあとの推進のところでも生きてくると思います。今までにないパターンかもしれませんが、ご苦勞をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

議題（２）に関しましてはよろしいでしょうか。どこというよりは、できるだけ参加をお願いしたいということで、ぜひよろしくお願いいたします。議題につきましては以上になりますけれども、「その他」に入る前に、今日の議題（１）（２）につきまして何か言い残したことなどございますか。

〔意見なし〕

○委員長 3「その他」につきまして、事務局からよろしく願いいたします。

○事務局 （「地域別ワークショップについて」、および「令和7年度の会議開催予定」について説明）

○委員長 ありがとうございます。ワークショップにつきまして何かご質問、ご意見はございますか。推進委員の皆様、ぜひご出席ください。本当は推進委員の皆さんがファシリテーターになってくださいと言いたところなんです。我々もこの会議をやっているだけではなくて、実際に自分の地域や、行ける所に行って、地域の実情をぜひ見てきていただいて、その温度感とか地域の実情をまたこの会議の中でぜひ反映していきたいと思います。これは行政の方が中心で、市民ファシリテーターの方も含めて行うということです。これも市の職員にとっても大変な取組になるかと思います。ちなみに、これは各会場の定員は決まっているのですか。

○事務局 大体25名程度と考えております。

○委員長 集まりますか。

○事務局 そのために、これからこのチラシを活用して周知したり、あとは地区社協や民生委員、地域福祉の活動をされている方にもピンポイントでお声掛けをしたりして、何とか集めたいと考えています。

○委員長 多少動員も必要かと思います。あと、こういう団体の人には来てほしいというある程度の枠も必要だと思います。キャパが関係してくるのですけれども、25人は少ないのではないですか。民生委員、地区社協、自治会とか、そういうところにお声掛けして、何人かずつ出して、プラス公募で、目標は40人くらいにしてはどうでしょうか。その辺りは、キャパシティの問題がありますのでお任せします。

あと、実は八街市で同じように今会議をしまして、この12月、1月に八街市でも市民懇談会を開いたのですけれども、その時に、今回初めて子どもの参加をお願いしたのです。小学生、中学生、高校生、地元の中学校の校長先生をお願いをして出てもらいました。非常に活発な意見が出まして、子どもたちは素晴らしいです。大体こういうと

ころに出てくる子どもたちは、生徒会とかそういうお子さんなのですからけれども、やはり大人も、子どもが入ることできちんと言わなければとか、子どもの考え方や目線というのもある、満足度が非常に高い懇談会でした。例年こういうものをやっても、充て職的に動員されてくるのだけれども、満足感がとても高くて、次回もこういうことをやるとしたら参加しますかと聞くと、ほとんど全ての人が「したいと思う」「ややしたいと思う」で、「したくない」という人はいなかったのです。それも珍しいと思いました。ですので、どうせやるのだったら、4月は新学期で忙しい時期なので大変なのですが、学校区単位でやるのであれば、子どもの出席とかその辺りも検討いただきたいです。今、子ども会議とか子ども議会とか、子ども計画のほうで市の担当課でやっていると思いますので、場合によっては、そこでのコラボのような形でやって、結果をそちらにも生かしてもらえればいいのではないかと思います。

せっかく全ての人、どなたでもというのであれば、可能であれば幾つかの会場でもいいので、子どもの参画とか、欲を言うと当事者の参画だけれども、それは次の課題という形で。ぜひそういうことも念頭に置いて、せっかくのワークショップですから、市がこういうことを考えているのだということについて、アンケート結果を含めてご意見を聞いて、これも骨子案に反映する。地域福祉の推進は、計画を作るだけではなくて、そのプロセス、過程でこういうことをやっているのだと市民の方々に知ってもらう場にもする。意見を吸い上げて反映するというプロセスを見せていくということも推進においてはとても大事なことで、この時期にワークショップをしていただくのは非常に有意義だと思います。私も、スケジュールを見て出られる所はお邪魔して、一緒に参加させていただきたいと思いますので、皆さんもぜひお誘い合わせの上、どこかの会場には参加していただけたらと思います。事務局ではないのですけれども、大変だと思いますけれども、ぜひよろしくお願いいたします。

○委員 白井市民ではなくてもいいのですか。

○事務局 活動に関わっていれば大丈夫です。

○委員 分かりました。

○委員長 職場がここにあるとか。

○委員 そういうのでいいのですね。

○委員長 何らかで白井市に関わっている方だと思いますけれども。事業所の方もぜひよろしくお願いいたします。あと、いかがでしょうか。皆さんのほうから何かありませんか。スケジュールとワークショップについてございましたけれども、たくさん集まるといいですね。

特になければ、以上で大丈夫でしょうか。では、事務局にお返しいたします。

○事務局 それでは、以上で白井市地域福祉計画策定等委員会第3回会議を閉会いたします。皆様お疲れ様でした。

使用した資料

- ① 資料1 白井市地域福祉に関するアンケート調査報告書
- ② 資料2 白井市福祉に関する団体ヒアリング調査＜結果まとめ＞
- ③ 資料3 白井市第2次地域福祉計画「地域福祉に関する施策」にかかる主な取組の評価
- ④ 資料 第3次地域福祉計画策定に係る地区別ワークショップの開催について
- ⑤ 資料 白井市第3次地域福祉計画策定スケジュール
- ⑥ 資料 地区別ワークショップのチラシ